

平成あそび隊

ニュース

「平成あそび隊は倉橋町と

護衛艦を見学しました」

四月十三日、八時三〇分、八本松を一路倉橋町に向かった呉市内までは一時間ほどで通過、音戸大橋を渡り音戸町倉橋町に、途中の道は狭いが車は少なく走りやすい道倉橋町では、倉橋歴史民俗資料館を見学した、町の主な産業は、漁業、農業、御影石の産出などです。また、島南方沖、百米から、ナウマンゾウやニホンムカシジカの化石が発見され瀬戸内海の謎が知られ貴重である次に、長門の造船歴史館を見学、ここでは、館長さんが実に詳しく、説明をしてくれた、倉橋島で遣唐使船が作られていた、昔から倉橋は木造船を得意として船大工が多く居たようでした。

島の漁業

島で生きる倉橋島の漁業は、瀬戸内海における漁業の一角を物語る。ここに展示した漁具は、例えはマゲ釣り、本釣りは今では見ることができないが、先人の取組を感嘆するほど、貴重といえる。



島の農業

耕して天に至る、という言葉がある。島には平地が少ないがゆえに、急峻な山を耕熟化するといった農地が多くある。ここでは、生きるという生活の原点を感じる事ができる。畑では芋、麦、大豆といった作物や、限られた水田からは稲を生産している。



島の石

倉橋の「御影石」は、明治後期から電車の軌道や建築用材として利用された。とくに大正時代には、国会議事堂の建築用材に採用され、一躍有名になった。倉橋島の石は花崗岩で、深い彫色をしているため「桜みかど」とおわれている。



ナウマンゾウの化石

倉橋町南方沖、深さ約100mの海底から多量の化石が引き揚げられている。その主なものは、今から約1〜2万年前のナウマンゾウや、ニホンムカシジカの化石などである。瀬戸内海のあけぼのを知る上で、大変貴重である。



歴史遺物

町内の「トロボ遺跡」から出土した土師器などである。遺跡は5-6世紀の長い間使用されていたと考えられる。島と島の間の砂洲が見える高地上に位置し、航海の安全を守る場であったと考えられている。



倉橋島で遣唐使船が造られていた…。 そんな木造船の歴史を今に伝える浜辺の博物館。

「長門の造船歴史館」は、1992年に開館した。展示室には、造船所のジオラマや古代から現在までの木造船模型と多数の海運資料を展示している。延べ床面積109平方メートル。展示品のメインは「ヨ」の字型の建物の中心にある1200年以上前の姿に復元された遣唐使船。長さ25メートル、幅7メートル、帆柱までの高さは17メートルあり、呉市倉橋町で1989年(平成元年)に建造された。



展望ラウンジ 遣唐使船と瀬戸内海の島々が展望でき、遠くは山口県の大島や愛媛県の島々も望める。



展示室1

倉橋の歴史と船のかかわりを映像やパネルなどで紹介。また、ジオラマにより木造船を造った船相の造船所を再現。



大挽船の材料である木材を一枚一枚挽きおろす大堀。木造船づくりには、なくてはならなかった。



展示室2 古代から中世までの倉橋町にゆかりのある船を模型船やパネル、絵図などで紹介。



第3展示室のラウンジより、遣唐使船の右舷。



展示室3 江戸時代の模型船や絵馬、古文書を展示し、倉橋の造船業と海上交通の歴史について紹介。



舟形船(千石船)



安宅船



打瀬船



瀬船



津和野瀬船



展示室4 船にける信筒、つい最近まで見かけた木造船を展示。



操舵室の三人



護衛艦をバックに

「護衛艦の見学」
 帰路、海上自衛隊の、護衛艦を見学した。
 ここは、毎週日曜日に市民に海上自衛隊の理解を深めてもらう為に基地を公開している、今回見学したのは「さざなみ」装備は高性能二十ミリ機関砲二機、五四口径百二十七速射砲やミサイルなど最新の装備をしていた。